

牧草園藝

第十八卷・第十二号

昭和四十五年五月十五日第二種郵便物認可
昭和四十五年五月一月一日(毎月一回一日發行)



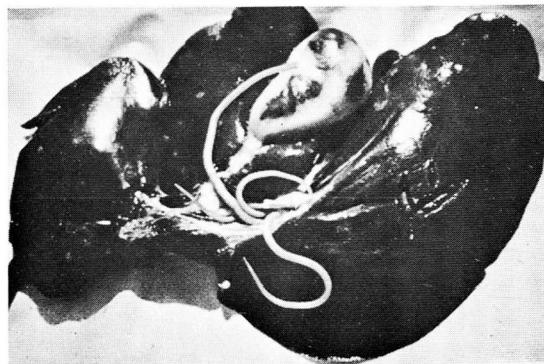
雪印種苗株式会社

豚の病気のいろいろ III

豚回虫症

糞中に排泄された虫卵は、外界で気温によってことなるが21～120日くらいかかるて成熟虫卵となり、感染子虫ができる。これを豚がたべると、小腸で遊出した子虫は門脈に入り、24時間後には肝に達するものがある。このほかリンパ管を通つたり、直接腹腔に入ったりするものもある。これらはやがて血流を通って肺に達し、成長をつづける。しばらくすると気管、食道を経て再び小腸に達し成虫となる。成虫になるまでに約70～90日を要する。子虫が肝や肺に達すると一時発熱し咳を頻発し、幼豚ほど被害が大きい。

子虫はまた胎盤感染したり、いろいろの臓器に迷入して致命的な障害をおこすことがある。駆虫にはピペラジン剤0.2～0.4g/kg、またはテトラミゾール剤0.007～0.01g/kgを1回与えると成虫はよく駆虫できるが、体内移行中の子虫は完全には駆虫できない。



輸胆管に迷入した回虫

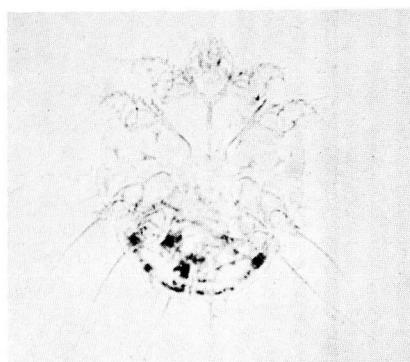
豚疥癬

豚の疥癬症は主としてダニ (*Sarcoptes suis*) の寄生により起こる。体長は約0.4mm、雄はさらに小型で肉眼でやっと存在が認められる。豚の皮膚の中にトンネルを造り、一世代10日くらいで盛んに増殖し、その部分に強いかゆみを生じるため、体を壁や柱などにこすりつけ、皮膚の擦傷、湿疹、細菌の二次感染などで化膿やかさぶたを作り疥癬症を呈する。

診断に際しては、ブタニキビダニ等の皮膚病によっても類似の症状となるので虫体の検出が必要である。



1. 頸部から頭部にかけての病変部



2. ダニ (*Sarcoptes suis*) 雌